

## 「漢字」は家庭教育で教えるものと覚悟すること

漢字は低学年のうちほど覚えやすいといいました。しかし、学校では当然ながら、低学年のうちに優先して、小学校でマスターしなければならない漢字の、それも読み方だけをまとめて教えるといったことは、今のところ実践されていません。

小学校一年生から六年生まで、各学年ごとに学習すべき“学年別配当漢字”が定められていて、その「読み」と「書き」を同時に勉強することになっています。一年生は 80 字、二年生は 160 字、三年生は 200 字、四年生は 200 字、五年生は 185 字、そして六年生は 181 字、総計 1006 字です。

そこで、この学年別配当漢字 1006 字の読み方については、少なくとも低学年のうちに、家庭で教えてあげてほしいのです。こと漢字に関しては、学校にまかせておけないケースがほとんどです。そして、漢字力がより容易に身につく時期を逸してしまうのは返す返すも残念なことです。

漢字力はすべての教科、教養の基礎となるものです。ここをしか

りさせて、読む力、読み取る力の向上につなげれば、あとは子供次第、彼らの好きなように勉強させ、自由にわが道を歩ませればいいのです。適切な時期に、適当な学習が何より肝心です。

私は、大脳生理学の見地からいっても、漢字教育は幼児期から始めるのが合理的だと考えますが、小学校低学年のうちならまだ十分に間に合います。この時期を逃さないでください。

漢字の学習を通して、親子のコミュニケーションが図れるのも、もう一つの利点です。「小学校低学年のとき、お母さんやお父さんといっしょに漢字を楽しく覚えました。おかげで本を読むのが大好きになったんですよ」 後年、子供の からこんな言葉を聞くことになったら、最高ではないでしょうか。漢字教育こそ、親から子供に贈るかけがえのない一生物の贈り物です。

親になったからには、子供をりっぱな人間に育てることが、もっとも重要な責務だと思います。どんなに仕事で業績を残したとしても、子供をよりよく育てる以上のものではないはず。りっぱな人間に育てるとは、健全な肉体のみならず、豊かな精神を培うことです。そして、豊かな精神の柱となるのが、心のありさまを表現する国語力であり、

わが国の場合でいえば、意味をもつ文字である漢字に強くなることで

す。

ひるがえって、漢字力を高めることは、語彙を増やすし、言語能力を高めることにつながり、それだけ自分の世界をよりの確に表現できることになります。

昨今、学級崩壊に象徴されるように子供の情緒不安定が社会的な問題になっていますが、これなども、子供が自分の思いを十二分に表現できるだけの言語能力をもたないために、思いや感情だけが心の内に溜<sup>た</sup>まって、遂には情緒不安定な行為として極端なかたちで発露するものと考えられます。ですから、子供の心の安定のためにも、漢字力を向上させることは大きな意味をもつのです。

教育の真髄が“人間育成”であるからには、折りに触れ、家庭教育こそ、その原点であることを認識していただきたいと思います。